

あつあつの卵かけごはんをほおぼる

おいしい朝ごはん&お掃除プロジェクト

おいしい朝ごはん&お掃除プロジェクトが5月15日、南九州大学都城キャンパス周辺で行われました。同大学の学生を支援する地域応援団「かたらん花」(松尾伊津子代表)が学生と一緒にキャンパス周辺を清掃し、食事も共にして交流を深めようと企画。同応援団の会員や学生ら約20人がごみ袋を手に、植え込みや道路脇に落ちていたこの吸い殻などのごみを拾い集めました。佐々木大樹さん(3年)は「清掃して、汗をかいた後の朝ごはんはほんとうにおいしい」と笑顔を見せていました。



悠久の時に思いをはせて

薩摩古道散策会

都城盆地博覧会(ボンパク)プログラムの薩摩古道散策会が5月22日、山之口町麓地区を起点に開催されました。市内外から参加した43人は、青井岳の森ふれあい交流実行委員会(前田宏会長)の案内で、江戸時代に薩摩藩が参勤交代に利用した新緑まぶしい13キロのコースを散策。旧跡の説明を受けたり、専門家から自生する植物の説明を受けたりとプログラムを満喫していました。原澤千保さん(太郎坊町)は「知らない場所でのいろんな発見があって、とても有意義」と話していました。



圏域のうめもとよかもんが集結

みやこんじよ復興まつり

地域を盛り上げ口蹄疫からの復興を願うみやこんじよ復興まつりが5月28日・29日、地場産業振興センターで行われました。会場では、食や工芸品などの地場産品が販売されたほか、地元の郷土芸能などが披露されました。また、明治後期に山田町発展の基礎を築いた石川理紀之助の縁で関係の深い秋田県潟上市の郷土芸能「新開ささら」も出演。3頭のシカが勇ましい踊りを披露し、会場を盛り上げました。潟上市の肥田野耕二教育長は「復興に物流面で少しでも力になりたい」と話していました。



想像力を膨らませます言葉遊び

東西寄席

日本の伝統芸能に触れる東西寄席が5月30日から6月2日の4日間、市内の小中学校8校で開催されました。5月31日に開かれた中学校では全校生徒258人が参加。想像することの楽しさを知ってもらおうとシンプルな話芸「落語」を楽しみました。上方落語と江戸落語の違いを聞いたり、普段は舞台袖にある太鼓を演奏したりして伝統芸能を楽しんでいました。南京玉すだれに挑戦した川村衣里さん(1年)は「難しかったけど最後はこつをつかんでうまくできた」と話していました。



蛇口からあふれるきれいな水 水道無料点検サービス

6月1日から7日の水道週間に合わせ、都城管工事協同組合青年部が中心となつて6月4日、水道の無料点検を行いました。組合員19人が5班に分かれ、事前に申し込みのあった市内5カ所の保育所を訪問。あやめ原保育所では、施設内の配管や蛇口からの水漏れの点検をしたり、摩耗したパッキンの交換をしたりしていました。中馬かよ子所長は「隅々まで丁寧に確認してもらつたおかげで、子どもが安全な水を飲むことができるので助かります」と喜んでいました。

アジサイの里のにぎわい 手作り村in山之口

手作り村in山之口が6月3日から5日までの3日間、山之口あじさい公園で開催されました。例年、アジサイが見頃を迎えるこの時期に合わせてかずらの会（木村順子代表）が企画。今年は開花の遅れから、例年に比べ彩り寂しい中で開催となりましたが、それでも遠くは佐賀県からも含め、陶器や木工、染め物を中心に16の事業者が出店し、多くの買い物客でにぎわいました。山内弘人さん（安久町）は「品数も多く、買い物以外でもいろいろと楽しめた」と話していました。

古式ゆかしく早乙女姿で田植え お田植え祭り

五穀豊穡を祈願する伝統行事「お田植え祭り」が6月4日、東霧島神社（高崎町）で行われました。地元小学校の児童ら27人が参加して、境内の水田で昔ながらの田植えを再現。かすりの着物に赤いたすきを掛けた早乙女姿の女子と法被姿の男子が「苗植えませい」の掛け声とともに、田植繩を使って古代米の赤米の苗を一株一株丁寧に植えていました。早乙女にふんした日高彰紀保さん（高崎小6年）は「時間もかかり大変だったけど収穫が楽しみ」と秋の収穫祭を待ち望んでいました。

田んぼの中でハッスル 高崎町どろんこバレーボール祭

町の活性化と五穀豊穡を祈願するどろんこバレーボール祭が6月5日、高崎町の水田で行われました。今年で19回目の同祭には、38チーム244人が参加。それぞれ趣向を凝らしたコスチュームに身を包み全身泥だらけになりながらプレーを楽しみました。お昼には地元産のみそを使った名物の「北斗鍋」を味わい、冷えた体を温めていました。友人と初めて参加したコレット・グラントさん（ジャマイカ出身）は「田んぼに初めて入って、土の感触が気持ち良かった」と笑顔を見せていました。



人の風景



あらゆる恵み、人、物への感謝、おかげさま

おかげ祭り振興会会長

川本 翰治かんじさん

祭りのにぎやかな様子を描いた朱色のポスターを目にする梅雨の時期、7月の祭り開催に向け準備に余念のないおかげ祭り振興会。その会長を務めるのが川本翰治さん（上川東一丁目・64歳）です。

おかげ祭りは、今から19年ほど前、当時希薄になりつつあった地域の絆をあらためて見直し、お互いが助けあう仕組みを作ろうと、川本さん自らが中心となって同振興会を立ち上げたことに端を発します。以来、18人でスタートした祭りは、今では参加者850人を数えるまでになりました。

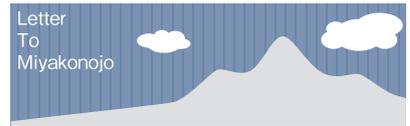
博多祇園山笠でも知られる福岡市博多出身の川本さん。子どもの頃は、山笠の稽古の時に振る舞われるおにぎりが楽しみだったと振り返ります。しかし一方では、決まり事やしきたりも多く、時には罵声飛び、厳しく指導されることもあったそうです。けれども、そのような経験があつてこそ、子どもたちは自然と大人や先輩を敬

い、ルールを学んだといいます。

川本さんは、祭りを通して地域の連帯感を高めたいとの思いから、「本物へのこだわり」を貫いています。それは参加する人ばかりではなく、地域の人や見物する人も誇れる「本物」でなければ、決して長続きしないとの考えからです。そのため、振興会ではこれまで全国各地で開催される名だたる祭りに出向き、研さんを重ねてきました。

「祭りの一番の見所は、本祭りの勇壮なみこし宮入りの儀。特に棧敷席での見物がお勧めです」と自信を持って話す川本さん。今年も神柱宮をメイン会場に、今月8日（金）の宵祭りりと9日（土）の本祭りの2日間に渡り開催されます。

来年は20周年の節目の年。「これまで祭りを続けられたのは、祭りに関わる仲間や、支えてくれるたくさんの人たちのおかげ。今年の成功はもちろん、市民が誇れる祭りを目指したい」とこれから先を見据えています。



都城讃歌

【都城から得たもの】



なるあつ
馬場 功淳さん

◎プロフィール

株式会社コロブラ 代表取締役 GM
九州工業大学卒業後、大学院博士課程の2003年に「コロニーな生活」を開発、その後「コロニーな生活☆PLUS」を提供開始。個人で運営しながらIT企業で勤務していたが、2008年株式会社コロブラを設立。移動の創出から地域・日本が元気になることを目指している。

わたしが現在代表をしている株式会社コロブラは、「コロニーな生活☆PLUS」(通称コロプラ)という位置情報を活用した携帯電話のゲームを運営しています。

実は歴史は古くて、03年から08年までずっとわたし1人で運営していました。昼はIT企業でエンジニアとして働き、夜はひたすらコロプラ運営、3時間も寝ていませんでした。会員が増えるにつれてこの生活を維持できなくなったため独立しました。

正直に言えば「やめよう」と思ったことは幾度となくありましたが、結局やめなかつたのは、「やめるのは簡単だ」と思って

いたからです。都城高専でラグビー部に所属し、日本一になった時の粘りの経験も生きたのではないかと思います。

現在のコロプラの会員数は約200万人。一つの区切りですが、個人の趣味で始めたゲームが、ここまで来られたのは、やはり「地方を元気にしたい」という思いがコロプラに息づいているからだと思っています。

東京に人やお金があまりに集中してしまっていますが、コロプラはおでかけを促進するゲームですので、観光に結びついて地方活性化につながることで最終的には、都城にも恩返しができるのではないかと考えています。

学校へ行こう

国立都城高等専門学校

吉尾町473番地1 ☎47-1259



◎学校のシンボル

「楽信館」

売店や学生食堂、保健室などがある施設で休み時間には、学生たちでにぎわいます。

「高専とは？」

都城工業高等専門学校学生会

都城工業高等専門学校は「高専」という愛称で呼ばれ、5年間の一貫教育を行うユニークな高等教育機関です。機械工学科、電気情報工学科、物質工学科、建築学科の4つの本科と機械電気工学専攻、物質工学専攻、建築学専攻の3つの専攻科から成り立っています。高専では、「優れた人格を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな実践的技術者の育成」を教育理念に掲げ、効果的に一般教育と専門技術教育ができるようになっていきます。

卒業時に本科生には「準学士」、また専攻科を修了し一定の条件を満たした学生については「学士」を取得できます。卒業後の進路は、就職・進学とも優れた実績があります。昨年の就職先は、一部上場企業を中心として、一流企業に多くの卒業生が就職して活躍しています。さらに、大学への編入学も可能で、大阪大学・九州大学・千葉大学などの国立大学へ進学しています。また、多くの留学生在が学び、モンゴルの大学との学术交流など国際色豊かであるばかりではなく、各種体育会、高専ロボコン、吹奏楽など部活も盛んです。そのような活動が我が校の自慢です。